

子どもにも見える道路の様子は大人の見え方とは違います。



### 「しっかりと見る」ことを 子どもの目線で指導しましょう

- 大人に比べ、子どもの視野は狭く、視線も低いため、大人には見えても、子どもには見えないうことがあります。
- 止まっている車の直前直後、走り去った車の直後、電話ボックスや電柱、看板などの陰から

では、道路の様子がよく見えず車からも歩行者が発見しにくいことを体験させましょう。

●横断する前は「右・左・右」といつも同じ順序で安全確認をさせ、「しっかりと見る」ことを習慣づけましょう。

抽象的な言葉だけでは危険を理解できません。

### 注意の「声かけ」の内容は 具体的にしましょう



- 「危ないよ」「気をつけてね」という言葉だけでは、どのようなに危ないのか、何に気をつければよいのか、子どもには理解できません。
- 叱ったりすると、それが気にならずに車などに対する注意がおろそかになります。明るく声をかけて送り出しましょう。
- 軽快な服装をさせ、あせりの気持ちを起こさせる忘れ物をさせないようにしましょう。

## 小さな子どもを守るため「かも」の構えで安全運転

### 3 子どもがこっちを見たら 「よけてくれないかも」

- 近ごろの子どもたちは車を怖がらないため、自分からよけようとしないうことがあります。
- 子どもの回避行動を期待せず、徐行・一時停止するなど、ドライバーのほうで積極的に危険回避の措置をとりましょう。

### 4 親子連れを見かけたら 「危険な行動をとるかも」

- 親が側にいると依存心が強く出て、危険な行動をとりがちです。
- 車道をはさんで向い側に親がいると、左右の安全を確かめずにとび出すことがあります。

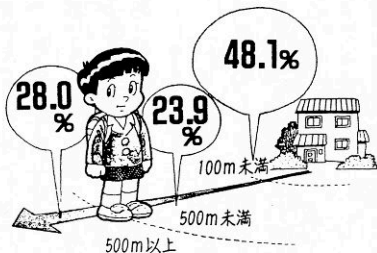
### 1 子どもを見かけたら 「とび出すかも」

- 子どもを見かけたら、必ずその反対側にも目に向け、母親や友だちがいたり、遊具があったらとび出しを予測しましょう。
- 自転車に乗った子どもにも警戒しましょう。

### 2 駐停車車両があったら 「陰に子どもがいるかも」

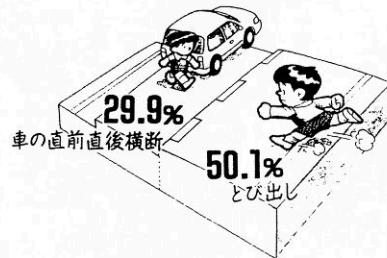
- 駐停車車両との側方間隔を十分にとり、その陰に目配りしながら、慎重に進行しましょう。
- 電話ボックスや電柱、立看板などの陰、渋滞車両の間にも目向けましょう。

●歩行中の事故の自宅からの距離別死者数



歩行中の死亡事故の5割が自宅から100m以内で発生

●歩行中の事故(第一当事者)の違反別発生件数



歩行中の事故の原因は5割が「とび出し」、3割が「車の直前直後横断」